

僕らの仕事

Miyaji LaVita Our Works

オリентホテル高知 省エネお助け隊

ハイブリッド給湯器でSDGsに貢献

市場開発室 省エネルギー担当室長 佐古文男

省エネルギー担当室が2018年から行っている「省エネお助け隊」の活動。宮地電機は、経済産業省資源エネルギー庁の「地域エネルギー利用最適化取組支援事業」において、省エネ支援団体に採択されました。四国4県の中小企業の省エネの取り組みを支えるとともに、「省エネに強い会社」として宮地電機の企業価値向上に貢献しています。

2023年には、オリентホテル高知株式会社様の省エネ相談・省エネ伴走支援を経て、ハイブリッド型給湯器を受注・納入しました。

伴走支援で課題解決に前進

省エネお助け隊の活動としてまず、オリентホテル高知様には一般財団法人省エネルギーセンターによる省エネ診断を受けていただきました。その診断報告書の中に、熱源をガスと電気を使うハイブリッド給湯システム導入の提案がありました。電気で駆動するヒートポンプは、コストは安いのですがお湯を沸かすのに時間がかかります。一方、よさこい祭りやスポーツチームのキャンプなどの繁忙期には、一斉に大量のお湯を使う時間帯が生じるため、瞬発力のあるガス給湯が適しています。この2つの良い所を組み合わせたハイブリッド給湯システムが、省エネ効率が高く需要に合っているという説明でした。オリентホテル高知様はこの提案に賛同し、導入を決定されました。

お助け隊の次の仕事は伴走支援です。省エネ診断で示された課題を深掘りし、解決に向けて準備をします。ここでは、ハイブリッド給湯システムの導入に向けて超音波流量計、電流計、温度ロガーを使って現状の給湯使用量を計測し、実際に必要となる能力を考察しました。

どの時間帯にどれぐらいのお湯が必要か、ヒートポンプの能力はどれぐらい必要か、ガスと組み合わせたらどうなるかなど、とても難しい内容でしたが、専門家やメーカーの力もお借りしてまとめ上げました。



お客様の信頼が、受注・納入に

機器の発注・納入は、宮地電機にご用命いただきました。これは脈々と続くお付き合いがあるということがひとつ。もう一つは、省エネ相談・省エネ伴走支援を通して、当社の省エネに関する専門知識をお認めいただけたからだと思います。

このハイブリッド給湯システムの更新には、国交省の宿泊業補助金を活用しました。当初オリентホテル高知様は100%自社経費でというお考えでしたが、省エネ伴走支援の中で提案した補助金活用を受け入れられました。我々に補助金のノウハウがあったことも事業者として選んでいただいた理由だと思います。

また、ガスについては、オリентホテル高知様の商社に入っている株式会社ツバメガス様に決定しました。ツバメガス様とは過去に「CO₂ポテンシャル診断」から生じたガス給湯器の納入でご協力いただいたことがあり、我々にとっては初のハイブリッド給湯システムでしたが、ツバメガス様との協力関係を築けていたことが「やれる!」という自信につながりました。2社で協力し、伴走支援時に算出した計測値を活用し、最大出湯の能力を備えたハイブリッド給湯システムの仕様と費用の概算をまとめ、承認を得ることができました。

無事にお引渡しを完了し、現在は、光熱費の推移を状況共有していただきながら、省エネ支援を継続しています。

高知の自然環境を守る一助になりました

オリентホテル高知株式会社
専務取締役 阿久津初夫様

宮地電機さんとは長いお付き合いで、LaVitaのウェディング事業立ち上げに当社のウェディング担当者が協力させていただいたご縁もあります。

私たち観光業にとっては高知の素晴らしい自然環境が売りですので、それを守ってゆくのは当然のこと。SDGsにも当たり前のことを当たり前にするというスタンスで取り組んでいます。

今回のハイブリッド給湯システム導入もその一つで、CO₂削減に成果を出すことができました。時間がない中で、宮地電機さんには大変よくやっていただきました。佐古さんにも泊まり込みで作業していただいたり、「もし何かあればここに連絡を」という24時間のフォロー体制を築いていただき、安心してお任せすることができました。

設備投資には多額の資金が必要となり、使える補助金があれば…と思いますが、我々はそういう情報に疎く後から知ることが多いです。今回はタイミングよく活用して支出を抑えることができ、本当によかったです。

電気代もコロナ前の通常営業時に比べると安くなっています。宮地電機さんに電気の使用量とCO₂排出量を可視化していただいたことで、社員の意識も高まりました。これからも会社一丸となってSDGsの取り組みを進めてゆきます。

